

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 12 月 7 日 (2006.12.7)

【公開番号】特開 2001-164796 (P2001-164796A)

【公開日】平成 13 年 6 月 19 日 (2001.6.19)

【出願番号】特願 平 11-347305

【国際特許分類】

E 0 4 H 15/20 (2006.01)

E 0 4 H 15/54 (2006.01)

E 0 4 H 15/64 (2006.01)

【F I】

E 0 4 H 15/20 C

E 0 4 H 15/54

E 0 4 H 15/64

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 10 月 18 日 (2006.10.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

【従来技術及び問題点】

従来この種の気柱を有するテントは、図 4 および図 5 に示すように、平面状の床布本体 1 1 の外周に全周にわたって立設された固定片 1 2 を有する床布 1 の前記固定片 1 2 で画成された部分に気柱 2 を立設している。このような気柱 2 は複数のアーチ状のアーチ状気柱 2 1 とこのアーチ状気柱 2 1 と連通し、かつこのアーチ状気柱 2 1 を相互に接続する複数の梁状気柱 2 2 を有した構造になっており、天幕 3 をこれらの気柱 2 1 および 2 2 に被せるようになっている。そして、前記天幕 3 の下端は前記床布 1 の固定片 1 2 にロープ R などによって複数箇所脱着自在に取付けられて、張られるようになっている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

【実施例】

図 1 は本発明によるテントの正面図であり、図 2 は側断面図、図 3 は床布を示す斜視図であるが、これらの図より明らかなように、本発明によるテントは、平面状の床布本体 1 1 の外周に全周にわたって立設された固定片 1 2 を有する床布 1 の前記固定片 1 2 で画成された部分に気柱 2 を立設している。このような気柱 2 は複数のアーチ状のアーチ状気柱 2 1 とこのアーチ状気柱 2 1 と連通し、かつこのアーチ状気柱 2 1 を相互に接続する複数の梁状気柱 2 2 を有した構造になっており、天幕 3 をこれらのアーチ状気柱 2 1 および梁状気柱 2 2 に被せるようになっている。そして、前記天幕 3 の下端は前記床布 1 の固定片 1 2 にロープなどによって複数箇所脱着自在に取付けられて、張られるようになっている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

本発明における床布 1 は、前記固定片 1 2 の外側に支持気嚢 1 3 が設けられている。この支持気嚢 1 3 は、空気供給口（図示せず）を有しており、膨張収縮可能になっている。そして、この実施例においては、四角形状の床布本体 1 1 の全周にわたって設けられており、相互に連通している。しかしながら、この支持気嚢 1 3 は、必ずしも相互に連通させる必要はなく、互いに独立していてもよい。前記支持気嚢 1 3 は前記固定片 1 2 および床布本体 1 1 に固定されている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

前記支持気嚢 1 3 には大きく口を開くことが可能な空気排出口が設けられており、この空気排出口には、前記空気排出口が開閉自在になるように気密ファスナー 1 3 1 が設けられている。このように大寸法の空気排出口と気密ファスナー 1 3 1 を設けることによって、床布 1 を折り畳む場合に、支持気嚢 1 3 より迅速に空気を排出することが可能になる。